

素敵な歌と舟はゆく (1999)

ADIEU, PLANCHER DES VACHES!
FAREWELL, HOME SWEET HOME [米]
ADDIO TERRAFERMA [伊]

メディア 映画
ジャンル ドラマ コメディ
製作国 フランス/スイス/イタリア
色彩 Color
時間 117分
初公開日 2002/01/12
公開情報 ピターズ・エンド
リバイバル 2004/06/19 [ピターズ・エンド]

【キャッチコピー】

アデュー！ 私の家族

【解説】

グルジアの巨匠オタル・イオセリアーニ監督が、パリを舞台に、ひとクセもふたクセもある個性的な面々のちょっとしたのんきな人生模様をさらりとユーモラスに描いた心あたたまる人物スケッチ集。優雅でゆったりとしたリズムの中、流麗なカメラワークに乗って、パリに暮らす個性豊かな人々の日常のひとコマが次々と切り取られていく。

パリ郊外の大きな屋敷。中では楽しげなパーティが開かれている。パーティの主役はこの屋敷に住む家族の母親。仕事をバリバリこなすやり手実業家。派手なパーティが大好きで今日も大勢の客を招いて大騒ぎ。一方の父親は大のワイン好きで、ひとり部屋にこもり愛犬のラブラドルと一緒にお気に入りの鉄道模型を眺めてご満悦。その息子ニコラは毎朝スーツに身を包み家を出たかと思うと、ボートに乗り込み途中でラフな服に着替えてパリ市内へ。そこで、なんと物乞いまがいのことをしてみたりバイトしてみたり。そんなニコラは今日もまた浮浪者をつるんだり、カフェの女の子に恋したり……。

なんと自由な映画なことか！ 登場人物の生き方も自由ならば、映画そのものもなんと自由。驚くほど多くの人物がカメラの前を横切り、カメラもまたそれを追うように首を右へ左へ。その場の思いつきかのように気の向くままにその対象をびよんびよんと移ろい行く。この全編を通してたゆたうような、それでいてリズムカルなカメラワークがなんとも心地いい。自由を描きながら、単に楽観的、無自覚的にそれを賛美するのではなく、わずか2時間の中に酸いも甘いも包み込んだ人生のあらゆる側面を飄々と描き（もちろん表層をなぞるだけなのだが）、その上で映画は自由を高らかに謳い上げる。紛れもない傑作。ジャン・ルノワール、とくに「素晴らしき放浪者」がお好きな方は必見。それから、屋敷の女主人のかわいいペットのコウノトリのなんとも優雅でどこか哲学的な佇まいはそれだけでも一見の価値あり。影の主役ともいうべき存在感。これぞまさに映画という一作。

【クレジット】

監督	オタル・イオセリアーニ	Otar Iosseliani
製作	マルティーンヌ・マリニャック	Martine Marniac
脚本	オタル・イオセリアーニ	Otar Iosseliani
撮影	ウィリアム・ルプシャンスキー	William Lubtchansky
美術	マニュ・ド・ショヴィニ	Manu de Chauvigny
編集	オタル・イオセリアーニ	Otar Iosseliani
	エヴァ・レンキュヴィチュ	Ewa Lenkiewicz
音楽	ニコラ・ズラビシュヴィリ	Nicholas Zourabichvili
出演	ニコ・タリエラシュヴィリ	Nico Tarielashvili 息子・ニコラ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています。

データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。

Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

リリ・ラヴィーナ	Lily Lavina	母
フィリップ・バス	Philippe Bas	バイク乗り
ステファニー・アंक	Stephanie Hainque	カフェの娘・ポーレット
ミラベル・カーkland	Mirabelle Kirkland	金髪のメイド
アミラン・アミラナシヴィリ	Amiran Amiranashvili	ひげの浮浪者
ジョアサン・サランジェ	Joachim Salinger	物乞いの青年
ナルダ・ブランシェ	Narda Blanchet	老婦人
ヤニック・カルパンティエ	Yannick Carpentier	召使
アルベール・マンディ	Albert Mendy	ドジな黒人男性
マニュ・ド・ショヴィニ	Manu de Chauvigny	好色な実業家
オタル・イオセリアーニ	Otar Iosseliani	父親
声の出演 マチュー・ドゥミ	Mathieu Demy	息子・ニコラ